

ドローン技術で国際賞

ROBOZ、美濃市長に報告

美濃市でドローンの開発やスクール事業を行うROBOZ(名古屋)が、優れたドローン技術などに贈られる国際的な賞「ジャパンドローン&AAWアワーズ2025」の2部門で受賞し、武藤鉄弘市長に報告した。

同社は国内で2社のみが技術を持つ屋内でのドローンショーが強い。先月東京

都で開かれたドローンの国際見本市「ジャパンドローン2025」に参加した。屋内での制御技術が評価され「ソフトウェア・アプリケーション部門」で最優秀賞を受賞し、来場者に関心を持った技術に投票する「オーディエンスアワード」にも選ばれた。

同社のドローンショーは30台ほどのドローンがカラ

フルに光りながらハートや丸などの隊列をつくり飛行する。屋外でのショーよりコストがかからず、航空法の規制を受けないため手軽に開催でき、個人の結婚式での依頼もあるという。

石田宏樹社長(50)は「インドアドローンショーは新しいエンターテインメント。まだまだ知名度は低く、受賞をきっかけに広く知ってもらえてうれしい」と表情をほころばせた。

武藤市長は「ドローンはこれからの防災、安全を担う技術。美濃市にドローンの開発を担う会社があるのはうれしい」と話した。

(榊原あやな)



今後の展望を話す石田宏樹社長(左)＝美濃市役所